

しづ老施協

卷頭言



「地域包括ケアを共に担う」

特定非営利活動法人

静岡県介護支援専門員協会会長 村田雄二

静岡県老人福祉施設協議会の皆様には、日頃より当協会や現場で働く介護支援専門員に多大なご支援、ご協力を賜わっておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、介護支援専門員の知識・技術の向上や情報交換を図るために、当協会の前身である静岡県介護支援専門員連絡協議会が設立されてから20年が経過しました。現在は、職能団体として個人会員を構成メンバーとするNPO法人に形を変え、会員数は約2,060名となっています。

会員の多くは居宅介護支援事業所に勤務していますが、各種施設における施設ケアマネとしてケアプラン作成担当などの役割を担っている介護支援専門員も大勢います。

近年、地域包括ケアシステムの考え方方が広まり、施設も地域の社会資源の一つとして認知される中で、施設ケアマネの役割や期待が一段と高まっています。まだ実績は少ないと思われますが、介護老人福祉施設から自宅等へ戻られる方もおり、施設での看取りも行われるようになってきました。施設と在宅を結びつける役割や、施設での看取り時のチームづくりなどを行う施設ケアマネも出てきました。多くの施設ケアマネは、担当する件数が在宅より多い状況の中、相談する先輩ケアマネが近くにいないなどの課題を抱え、日々悩みながら活動しています。施設ケアマネが施設間同士で情報を交換したり、共に学ぶ機会が増えると

良いと思っており、当協会でも施設ケアマネに対する支援の強化を進めるべく検討しているところです。

老施協さんには、当協会が見習うべき多くの取組があります。その1つが、災害時における他施設への応援態勢や福祉避難所の開設です。また、全国組織から国会議員を輩出し、国への処遇改善の要望等を積極的に行っていることや、施設での看取りができるように体制を整え、時代の要請に応えるなど、例を挙げればきりがありません。当協会も地域の要請にしっかりと応えていくことや、その活動が実現できるよう行政に強く働きかけるなど、もっと社会的な役割を担っていきたいと思っています。

そして、介護支援専門員の質をいかに高めるかの課題への対応ですが、上位団体である日本介護支援専門員協会が、本年度より生涯学習制度の運用を開始することになりました。今後、経験年数や本人の能力に合わせて学習する学びの場が設けられることになります。是非、皆様の施設におかれましても、介護支援専門員の生涯学習体系を参考にしていただき、学びの機会を作っていただければ幸いです。

結びに、皆様方施設における新型コロナウイルス感染防止に向けた一方ならぬご尽力に心より敬意を表するとともに、貴協議会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。